

緑園連合 News

2020年10月15日 vol.42

発行 緑園連合自治会
発行責任者 成田 俊人
編集責任者 貝沼 貞夫

◆◆敬老の日特集◆◆

「ウイズコロナ！ 人生100年時代 緑園を健康長寿のまちに！」

今年も敬老の日（9月21日（月））を迎え、高齢者のこれまでの社会への貢献に感謝し、健康長寿をお祈りする様々な行事が行われました。今年の場合は、新型コロナウイルス感染防止の観点から、集会形式を避けつつ心のこもった内容に切り替えての催しとなったようです。今号では、新型コロナウイルス感染を防止しながら、健康で長生きできるよう、関連情報をお届けしたいと思います。

<日本人の平均寿命と健康寿命について>

（今年の7月31日の報道による）厚生労働省のまとめによると、去年の日本人の平均寿命は女性が87.45歳、男性が81.41歳で、前の年より女性は0.13歳、男性は0.16歳延びました。男女ともに過去最も長くなっています。このように、寿命が年々延びてきていますが、できれば一生元気で生活できるのが理想です。

しかし、普通の日常生活に支障をきたし、何らかの原因で不自由な生活を強いられる平均期間は、女性の場合約12年間、男性の場合約9年間とされています。

<健康寿命を伸ばすには>

このテーマは高齢者に限ったことではなく、若い方々も、日ごろから、食事、休養、運動、睡眠など規則正しい生活を心がけることや、定期的な健康診断による病気の早期発見に努めることが奨励されています。

<新型コロナウイルス禍を乗り切るには？>

感染を怖がって、一人で家に閉じこもりがちになりやすい今日この頃ですが、マスクを着用して、なるべく人ごみを避けつつ、散歩、ジョギングするのも良いでしょうし、庭や畑での野菜づくりなど、アウトドアで過ごすのもよいでしょう。

◆◆令和2年度緑園地区敬老祝賀行事報告◆◆

9月21日（月・祝）に開催を予定していましたが緑園地区敬老祝賀会は、新型コロナウイルス感染拡大予防の観点から、今年度は中止となりましたが、75歳以上の方々に、お祝いの記念品をお届けしました。

<緑園地区の高齢者の人口について>

人口統計数値を、泉区役所区政推進課より提供いただきました。本年3月末現在、総人口は13,798人、75歳以上の方々は1,612人です。

<記念品の贈呈について>

今年も各自治会に、75歳以上の方々の応募者リストを作成していただきました。その結果、1,093名が対象となり、お祝いの記念品を贈呈致しました。また77歳、88歳、99歳、100歳の方々は、お祝いの商品券をお届けしました。

9月19日（土）、お祝い品を区分け、配送する会場：地域交流センター入り口には、早朝より、連合自治会、緑園地区社会福祉協議会の関係者が集まり、対応に当たっていました。

「三密」を避けるため、時間と場所を区分して、各自治会に引き渡され、各自治会の民生児童委員や役員の協力で、家々に届けられました。



配布会場風景
(地域交流センター)

緑園地区の高齢者人口統計値 (本年3月末)

	人	総人口に占める割合%
総人口	13,798	100
65歳以上	3,833	27.78
75歳以上	1,612	11.68

丁目別対象者数

丁目	75歳以上	参考)75歳以上統計値(本年3月末)
1	92	154
2	162	211
3	138	219
4西	159	
4東	207	522
5	58	96
6	224	323
7	52	87
計	1,092	1,612
77歳:87名		88歳:39名
99歳:5名		100歳:3名

◆◆令和2年度 緑園地区活性化委員会◆◆

2020年度活性化委員会代表者委員会は、新型コロナウイルス感染防止対策のため、集会方式に代え、書面による審議・議決方式で実施いたしました。

<書面による審議・議決内容について>

対象委員：各自治会代表8名、特別推薦10名、各団体代表10名

審議・議決案：

①2019年度活動報告・決算報告

②2020年度活動計画・予算

期日：5月12日書面送付、5月25日締切

<議決結果について>

集計結果：総員28名、回答23名
(回答率82%)

議決案①、②ともに全員一致で可決致しました。

尚、新役員（案）については、7月度定例会にて承認されています。

役職	氏名	所属自治会
委員長	長谷川幹夫	緑園二丁目
副委員長	成田俊人	緑園七丁目
副委員長	鈴木清文	緑園四丁目東
会計	清水国雄	緑園六丁目
会計	小島博	緑園四丁目西
会計監事	大野英夫	緑園五丁目
会計監事	伊藤正男	緑園六丁目
総務部長	佐藤佑幸	緑園二丁目
総務副部長	大嶋裕司	緑園二丁目
泉区地域協議会緑園地区代表		
役職	氏名	所属自治会
委員	長谷川幹夫	緑園二丁目
委員	成田俊人	緑園七丁目

事業内容		
部会名	事業内容	部会長
1. 緑の園の継承	地域の緑整	横川満
2. 緑園坂の駅ポンテ	買い物支援・地産地消	大嶋裕司
3. 小学生総合学習支援※1	東小・西小児童の総合的学習支援	鈴木照明
4. 緑園子ども見守りプロジェクト※1	花育てで小学生見守り	小島博
5. タスカル	地域住民交流事業	長谷川幹夫
6. 緑園街マルシェ	後援(主催:相鉄H・横浜市)	岡部容子
7. フェリス女学院大学との連携	学生の地域行事への参加・参画調整	鈴木清文
8. 地域デビュー支援※2	地域住民の地域活動参加の条件整備	長谷川幹夫
※1小学生見守り事業部		※2新規事業

<新型コロナウイルス禍の活動への影響>

新型コロナウイルス禍の影響で、緑園東・西小学校関連の緑園子ども見守りプロジェクト行事が中止と決まりました。また、フェリス女学院大学との交流も影響を受け、事実上、活動が停止状態にあります。その他の部会の活動では、「三密（密閉、密集、密接）」を避けつつ、手指の消毒、検温、マスクの装着などの基準を守りながら、行事を進めています。

◆◆新型コロナウイルス禍における生活のありかたについて◆◆ —メッセージ—

緑園民生児童委員協議会代表 堀口澄枝

「ご存知のように、外出自粛や新しい生活様式への切り替えなど、これまで体験したことのない事態となっております。地域の安全、安心を心がけて活動している民生児童委員も今年の訪問は、インターホーン越しのお元気な声を聞いて安心し、チラシ・メッセージを投函することしかできません。今年の夏は、特に8月に入って、梅雨明けとともに猛暑が続き、マスクを身に着ける機会が多く、熱中症のリスクも余計高まったシーズンでした。これからも、室内の温度管理に気を付け、バランスの良い食事、適度な運動、十分な睡眠を心がけてまいりましょう。新型コロナウイルス禍はまだまだ長引き、「新しい生活様式」は、これからの世の中の常識になるかも知れません。お互いに知恵を出し合ってまいりましょう。」

◆◆環境事業推進委員会からのお願い◆◆

緑園地区環境事業推進員代表 高田 明

★ごみ・資源物の正しい分別について

新型コロナウイルス感染症対策として、「新しい生活様式」が求められ、テレワーク、食事のテイクアウト等が増えています。ご自宅で過ごす時間が増え、各家庭から出されるごみが激増しており、その上、分別が正しくないごみ量の比率が高くなっている様です。

ご家庭から出される「燃やすごみ」に含まれる資源物となるものを正しく分別いただく事が、燃やすごみ量の減少→ごみを燃やす時に発生する温室効果ガスの減少（プラスチックは、燃焼時、生ごみの150倍の温室効果ガスを発生させます。）&資源物の回収量増大につながります。

分別ルールの再確認の意味を込めて、先月、各ご家庭にパンフレットを配付させていただきました。パンフレットをご活用いただき、ごみ・資源物の正しい分別へのご理解ご協力をお願いいたします。

★年末一斉清掃について

緑園地区の恒例行事である「年末一斉清掃」は、新型コロナウイルス感染防止のため、開会式は行わず、12月13日（日）を「緑園地区年末一斉清掃日」として、各自治会単位で、自分たちの自治会エリアを清掃いただく形とします。多数の住民の皆様がご参加頂けることを願っています。

—緑園活性化最前線—

◆◆10年目を迎えた活性化委員会「緑園坂の駅ポンテ部会」活動◆◆

緑園地区活性化委員会「緑園坂の駅ポンテ」部会（大嶋裕司 部会長）の活動は、今年度10年目を迎えております。今号では、この活動をスタートしたいきさつや活動の経過を振り返り、これからを展望したいと思います。



<チーム発足・活動開始のいきさつ>

緑園地区活性化委員会は2009年6月26日に発足しました。当委員会は、少子高齢化社会を迎えている緑園地区が抱える諸課題を抽出し解決して行く組織として、大嶋部会長地域の要請にこたえるべく活動を開始しました。まずは、およそ1年がかりで、プレーストリーミング方式で課題の掘り起しを行いました。その結果、複数のテーマが浮上した中で、「地域住民とフェリス女学院大学との協働によるコミュニティストアの開設」が取り上げられました。このテーマは、当時、委員会の委員であった四丁目東の街の自治会会長の中嶋信行氏を中心に、前社会福祉協議会緑園地区代表の後藤登美雄氏の後押しもあってチームとして発足し、2011年活動がスタートしました。

<「緑園坂の駅ポンテ」の由来>

緑園は坂の街。坂道と坂道をつなぐ、人と人をつなぐ架け橋になればとの願いから、イタリア語の「橋（Ponte）」を採用しました。



<フェリス女学院大学との協働で大根の販売会実現>

同年1月29日（土）、同大学の高雄（先生の）ゼミの学生が、泉区内の農家の協力が無農薬で栽培した大根の販売会が、東の街の敷地内で実現しました。このニュースは神奈川新聞に掲載されました。

<泉区より地域経営まちづくり支援補助を受けテントと幟旗を購入>

同年度より、緑園地区活性化委員会として泉区から補助金をいただけることになり、テントや幟旗を購入。新しい装備のもと、フェリス女学院大学の学生が栽培、収穫した大根の販売会を翌年1月に再度行いました。

<泉区の農産物を緑園の青空市場で販売する構想実現に向けて>

同年度、青空市場を開設した際の参加意向について、泉区役所よりいただいた情報にもとづき、69軒の農家・販売所にダイレクトメールを送りアンケート調査を実施しました。その結果、15通の返信があり、8軒より賛同の意向をいただきました。さっそく2月に各お宅を順次訪問し情報交換しました。しかし、緑園側の諸事情により、具体的な展開が遅れたため、多くのお宅からお叱りをいただきました。8月になり、大嶋部会長中心に、お詫び方々再度訪問し協力を要請した結果、ようやく片野農園に参加いただけることになりました。



大根販売の様子



2月：フェリスと交流のある自然館にて
(左)中島氏、(中)長谷川



2月：片野農園にて
(左)中島氏



8月：猛暑の中での交渉
にのぞむ新メンバー達

<泉区の農家訪問と名勝探訪バスツアー企画>

11月6日、「坂の駅ポンテ」主催「泉区の農家訪問と名勝探訪バスツアー」を企画しました。総勢18名がマイクロバスで、泉区の各所を巡り、農業事情を学びました。

<販売会実現>

2012年度より片野農園と提携し、当初は、2丁目西原登記測量事務所の駐車場をお借りして、片野農園による採れたて野菜・果物の販売を企画・スタートしました。その後、主販売会場を変更し、東の街交差点前のスペースをお借りして、夏野菜、秋野菜の販売を行っています。他に1丁目、2丁目、4丁目東の街の餅つき大会や、緑園連合夏祭り、緑園福祉ふれあい祭り、横浜緑園高校文化祭等の会場をお借りしての販売活動を行っています。

<他の農家との提携について>

これまでの片野農園の他、新たに横山農園とも提携しています。

<フェリス女学院大学のフェアトレードチームとの協働販売>

同女学院の学生による、ネパールの紅茶やお菓子の販売（ネパールの女子学生の就学支援目的でのフェアトレード）を、同時開催の形で実現しています。

<大嶋部会長談>

「当初、この活動が10年続くとは思いませんでした。いい仲間にも恵まれたこと、活性化委員会、片野農園はじめ多くの方々のご支援をいただけたことが継続発展できている要因です。ボランティア活動は楽しくなければ続きません。

これからもこの活動を楽しんで参加できるよう取り組んでいきたいと思っております。

編集後記

夏から秋にかけての行事は、ほとんどすべてが中止となり大変残念ですが、少しずつ自治会の活動が再開しています。工夫しながらできる範囲で活動をしていければと思います。次号は1月15日発行予定です。

【編集委員】貝沼貞夫、長谷川幹夫、田谷善宏、飯塚智明、鈴木英範、森田伸一